平成26年度　第３回静岡市文化振興ビジョン評価等懇話会議事録

１　日　　時　　平成26年10月８日（水）　13時30分～15時

２　場　　所　　静岡市役所　本館３階　第２会議室

３　出 席 者　　（委　員）上利会長、川口副会長、入川委員、髙岡委員、林委員
（事務局）小泉参与兼文化振興課長、酒井課長補佐兼企画係長、
三浦副主幹、相馬非常勤嘱託

４　傍 聴 者　　０人

５　議　　題　　「静岡市文化振興ビジョンの総合評価について」

６　会議内容

（１）開会：事務局（三浦）

第３回静岡市文化振興ビジョン評価等懇話会の開会を宣言する。
委員の過半数以上の出席があるため、会議が成立していること及び傍聴者が０人であることを報告する。
今回の議事録署名人を、上利会長、林委員に依頼し、両名から承諾を得た。
また、第２回静岡市文化振興ビジョン評価等懇話会議事録について、本日、上利会長及び入川委員の署名を受けたあと公開することを報告した。

（２）議事：議題『静岡市文化振興ビジョンの総合評価について』

・上利会長：事務局に説明を依頼する。

・事務局（酒井）

第２回静岡市文化振興ビジョン評価等懇話会において意見が出され、次回の懇話会で回答するとしたことについて、文化振興ビジョンの推進に当たり特に力を入れた取組みや成果があったもの、また課題について事務局としてまとめ示して欲しいとの意見に対し、「『静岡市文化振興ビジョン』推進の成果と課題について」という資料に基づき説明する。

また、施設整備に関する意見について、補足説明を行う。

・上利会長：各委員に質問・意見を問う。

・上利会長

５ページの一番上の２行目に、「拠点の整備を地域の活性化に結びつける」とあるが、商店街と連携して回遊性を高めるということについて、以前からこういう話が出ていたのか。

・事務局（酒井）

前回、委員からファックスやメール等で意見をいただいた中に、こういったことが重要だという記載があり、事務局としてもそのように考えるため、記載

させていただいた。

・上利会長

　イメージがわからないのだが、例えば県立美術館があるとすると、その周辺の商店街というのは、レストランとかショップということを指すのか。それとも、その文化的な活動をそこでもやろうという話なのか。

・事務局（酒井）

　清水文化会館の事業が代表的な例として挙げられるが、清水文化会館は清水の賑わい創出を設置目的の一つとしており、館の事業として行う落語公演の一部を商店街の空きスペースを使って実施するなど、そこに人を集客するといったこともやっている。

・上利会長

　つまり、レストランとかと一緒に経済的に盛り上げましょうという話ではなく、クローズな施設だけではなく、周辺にも文化の効果をということか。

・事務局（酒井）

　結果的には、経済的効果も出てくるかもしれない。

・上利会長

　観光と結びつくのはよくある話で、両面があるということか。回遊性というと、そこの施設に来た人が、見たり聞いたりした後にすぐ帰るというよりも、その地域で時間を使って楽しむということをイメージしていると思うが、これが方向の２－２の方策①から④までの「活動拠点の整備」にも当たるのかもしれないが、どういうことをイメージしているのか。

・事務局（酒井）

　環境整備という一般的な言葉のイメージからいうと違うのかもしれない。

・上利会長

　そういった考えも盛り込んでいきたいということか。

・上利会長：各委員に質問・意見を問う。事務局に引き続き説明を依頼する。

・事務局（酒井）

　全体評価に係るものとして、委員より事前にあった意見等について、「全体評価に関する質問事項」という資料により説明する。それに続いて、「静岡市文化振興ビジョン総合評価書」という資料に基づき総合評価書（案）について説明する。

・上利会長：各委員に質問・意見を問う。

・林委員

　推進体制について、特に最後の「行政が主導する文化活動というものを次の段階に進め～」というところで、行政と市民が協働するという場合に、そのコーディネートをする人の育成というか、養成する仕組み、いわゆる参加のデザインを作っていく手法を学ぶことが必要であろうということを痛感した。

・上利会長

　どうすればよいかという、その次のアイディアなどがあれば伺いたい。

・林委員

例えば、参加のデザインなどを標榜している『世古一穂』いう方がおり、そういう講座を市民が受けて、コーディネーター役を務めていくというような手法をとっている、小さな町ではけっこうやっているので、そういうことが必要ではないか。

・上利委員

県も「支える」と言って、そういうものの養成の必要性を謳っていて、大学でも文化庁からのアートマネジメント事業を進めているが、市としてはどのように考えているか。必要性については、賛同はしていただけると思うがどうか。

・事務局（酒井）

具体的なものはなく、先進地の事例研究を深めなければならないと考えているが、なかなか難しいところではある。例えば自然発生的にそういう方が育つというパターンもあるし、どれだけ行政がかかわればいいのかということもある。いろいろなパターンが考えられるが、外部から講師を呼ぶとなると予算的なものも伴ってくるが、まだ具体性はないが必要だという意識はしている。

・林委員

手法を学ぶ講座みたいなものを用意するということが、これから必要となる。

・川口委員

静岡市には、育成というかコーディネート、養成といったことに関連した事業というのはあるのか。

・事務局（酒井）

コーディネートの育成というものはない。例えば、ＡＯＩで野平先生が行っている伴奏法講座といったものはあるが、いわゆる伴奏が上手になるというものであって大変好評は得ているが、いわゆる事業の、あるいは行政と市民を結びつけるといったコーディネートをやるための橋渡し的なものとしては、残念ながら現在は欠けている部分といえる。

・川口委員

公民館でいろいろな講座をやっている先生というのは、こういう企画をやりたいということで自分で手を挙げるのか。どういう部署の方が探してくるのか。

・事務局（酒井）

生涯学習推進課の担当分野になるが、いわゆるリスト的なものがある。事業を行う時には、過去にやっていただいた方とか、そういうものを参考にしている。

・川口委員

カルチャースクールではないが、先生のリストみたいなものがあるのか。

・林委員

そういうものを学ぶための、専門的な講師が何人かいるが、まず行政がそういうところに参加して学び、いろいろなところに出かけて行く。自ら支援と言っているが、どういう方法で市民を巻き込んでいくかということ、そういう手法をまず行政側が学んでおいて外へ出かけて行くなど、いろいろな方法があると思うが、既に焼津や蒲原では何年か前からやっていると聞いている。

・上利会長

「市民とどう手を携えていくのかが問われている」という文章になっているが、先ほどの成果と課題のところの一番最後には、「何々ができていない」、「課題として何々が必要になる」というということが書いてある。問題なのは、文章ができました、それを何人かが目を通しましただけでは、次の展開になかなかいかない。必要であるということについて、今後どのように受け継がれて、実際の対応がなされていくのかという手順がないと文章で終わってしまう。検討課題として挙げたものは、次年度以降にどのように継承されて対応していくのかという、ビジョンというか、将来像を教えていただきたい。これはどうなのかと聞いた時に、「検討させていただきます」という回答がよくあるが、どう検討していくのかということが必要で、ただいただきますという言葉で終わらないためには、どうするのがいいのか。「必要となる」とか「問われている」とあるが、問われた対象、主体は文化振興課ということでよろしいか。

・事務局（文化振興課長）

基本的には行政になる。行政だけではできないものもあるので、それについては関連するものも含めて、必要であれば今後検討していく。新たな展開における次のビジョンとして条例制定を考えているため、条例、またその下の計画の中に活かせるものは活かすという展開になる。

・上利会長

条例だと文化振興課ではなくなるのか。

・事務局（文化振興課長）

基本的にはここで扱う。

・上利会長

次の展開として、条例化に向け検討委員会が出来上がると思うが、その際にどういうことが課題であるのかということについては、文化振興課が受け止めて基本的な文案を作っていくということか。

・事務局（文化振興課長）

評価と課題を含めて、条例に入れられるものは入れていく。それをもっと具現化するために、ビジョンという名前になるか計画になるか、そうしたものができてくるので、この評価と課題を基にして、次のステップに進むというように考えている。

・上利会長

この評価に関して、文化振興課の職員全員が見るというわけではないのか。

・事務局（文化振興課長）

基本的には、文化振興課だけではなく、ビジョンの評価であるため、すべての関連した課には見ることになる。

・上利会長

職員には全員配布かどうかわからないが、どこかに置いて閲覧をするということか。

・事務局（文化振興課長）

文章的なものをメールでそれぞれの関係課に送るので、評価については、その課の事業担当者については全員が見ることになる。ホームページ等で公開するため、結果的には市民も見ることになる。

・上利会長

せっかくの評価が死んでしまうともったいないと思うので。

・事務局（文化振興課長）

課題を意識しながら、次の条例や計画を策定していく。すべてが次に反映できるとは言えないが、コーディネートの講座の話が出たので、すぐ市民に対してできるのかわからないが、まず勉強の意味で市がやるなど、ステップを踏みながら可能性を探っていきたい。

・上利会長

そういう対応をしていただけるようなので、どんどん意見を言っていただきたい。

・川口委員

今の質問は、大切であるとか必要であるということに対して、具体的な施策なり考え方を持っているかということだ。つまりそんな影響を考えてこの文章を書いたのか、いやこれからそれをつくりますという考えなのか。多分これからつくりますという考え方だと思うが。

・事務局（酒井）

現ビジョンは計画年度もあるので、ひと区切りとさせていただくが、課長のほうから説明したとおり、次の計画に反映できるものは当然反映させていきたい。

・川口委員

行政用語ではないが、行政は何かというとセンテンスであって、読めば一見、そうかと思えたりするものもあるが、よく考えるとどうするのだろうということがよくあり、行政が一番よくわかっていないということがある。

市は何をしているのかと新聞などで投書する人がいるかもしれないが、我々はこういう議論をしなさいと言われているからいいのだが。読めばどうするのかというようなものがその文面の背景にあることを読み取るわけだが、その下の意見を求めないというわけではないから、そうなのかと思って済ませていることもあるかもしれない。それがいいことなのかもしれないが、よく考えていくとどうなのだろうという疑念がある。行政文書はある意味、こういう抽象的なところで終わっていて助かることもある。

・林委員

むしろ次に続いていくようなことで終わっていると。

・髙岡委員

現ビジョンにおいての課題というのは、次のビジョンに向けてこういう課題をクリアにしていきましょうというニュアンスでいいのか。

・事務局（酒井）

意識しながらまとめさせていただいている。

・髙岡委員

市民参加の協働ということで言うと、市内でどんな文化的な活動が行われているかという、市民がスパイというか、情報収集するみたいなことは手伝いやすい分野ではないか思う。そういうことから始めて、それをコーディネートする力を持った人を育てていくということの、第一段階として考えられるのではないか。

・入川委員

情報収集についてだが、「市民の意見をどう集約するかが大切」とか、「アンケートをとるのが必要」というように書いてあり、この方法について検討するのにホーページなどでという話があったが、ホームページを見ることができる市民はどのくらいいるのか。身近な例だが、名前を書かなくてはいけないものがあり、ネットで署名した人よりも紙に書いた人のほうが５、６倍多かったという事実がある。ホームページを見る人よりは、紙で情報を得るという人のほうがはるかに多いのではないかと思うと、広報紙で見ることもできるが、項目が多くて熱心に見るのもなかなか難しい。もっと簡単に、一般の方が文化的な情報をキャッチできる方法があればいい。

・事務局（酒井）

今の話には文化情報の発信という意味もあり、確かに関心がない方にも文化情報が行き渡る、あるいは関心が高まるような情報発信ができればいい。また情報収集という意味では、確かにネット環境があまり進んでいない方もいるし、イベントに来た人の意見というと、見たくて、来たくて来ているものなので、満足度が高くて当たり前というところもある。そうではない本当に一般の方の意見等を集約するといったことの重要性は認識している。例えば、広報課で行う調査もあるが、それを課でやることも多少の予算がかかるが可能なので、無作為抽出で市民の方に郵送アンケートをとって、それを毎年、あるいは５年後など、どれだけ文化的な醸成ができたかというように、同じ質問を何年後かにとることもパターンとしては考えられるので、市民の意見をなるべく取り入れていきたい。

・川口委員

これを見て、市はすごくいろいろな文化事業をやっていると思うが、これだけのことをやっていることを市民は理解していないと思う。そういう意味では、これだけ静岡市が文化振興ビジョンに関連する事業をやっているというのをＰＲする、広報するということをやる必要があるのではないか。委員になってこんなにやっているということがわかったが、自分がやらない分野が多いので、関係者を増やすというか、関心を持ってもらうことに対する手段を探すということは必要ではないか。こういう分野はみんながスペシャリストになってきて、専門分野には相当な造詣があるのに、他の分野に関してはあまり関心を持っていないのかもしれないが、せっかく裾野を広げるとか、新しく参画してもらうということを考えたときにどうしたらいいか。

・上利会長

市として、ここの課はこんな活動をしていますというチラシのようなものを見たような気がするが、そういうものを一般的に作っているものなのか。文化振興課では、こんな活動をしていますとか、問合せや意見があればといような簡単なチラシのようなものはできているのか。

・事務局（文化振興課長）

「市政の概要」という冊子はできている。文化振興課はこんなことをやっているという内容だが、細かいことは載っていないため紙媒体ではなかなか難しい。

・上利会長

清水庁舎のほうで、スポーツではこんなことを支援していますとか、いくつかの簡単な本を見たような気がする。生涯学習課はこういうところで、こことここはこう関係しているというような、全体がわかりやすく絵で描かれたカラーのものがあるといい。

・事務局（文化振興課長）

広報課で作成しているＰＲで、市役所はこんな仕事をしているというのはあるが、ただそれが細かいところまで事業を羅列しているというものではなく、それぞれについて一番わかりやすいのはホームページになる。それぞれの課のある程度具体的なページに進むと、そこには事業とか補助とかそういうものも出ている仕組みになっていて、確かにホームページを見れば細かいこともよくわかるかと思うが、そういう環境のない方については問い合わせをしてもらわないと、今の状態では大きいことしかわからない。

・上利会長

今、ビジョンには３つの柱があって、一番目が文化財、二番目は市民活動、三番目が発信・交流とあり、だいたいこういうことをやっているのだということが簡単にわかるといいと思ったのだが。

・林委員

生涯学習課に関係した仕事をしているが、そこへたまたま今年来た方が、これは文化課のほうではないのかとか、担当領域についての判断が難しいようだったが、お互いの疎通ができて無駄を省くことができていくといい。これは行政の課題で、縦割りでやっていることもあり、二つを掛け持ちすると感じるのだが、職員自身が案外わかっていないのかもしれない。

・川口委員

市役所の１階ホールでのビデオ上映などの情報発信というのは、気軽に観光情報だとかが得られる。文化振興ビジョンに関係するような事業内容というのは、ぱっと来た市民が目にするようなわかり易い場所をつくるなど、見る見ないに関わらず無理してでもやり始めないと、広報誌だけではとてもいかないのではないか。

・事務局（酒井）

１階で上映しているものは広報課が取りまとめているが、市全般の情報であるため、マリナートができた時には、取り上げて流してくれた経緯があるが、

文化というスポットでは難しい。

・川口委員

欲を言えば、観光以外で歴史紹介コーナーとか、文化振興コーナーというか。ブースというかそんなに広いスペースではないが、そこに行くと市の案内や音楽やイベント事業などの情報を待っている人が見られるという、そういうコーナーがあればいい。

・事務局（文化振興課長）

紙媒体といえば、それぞれの区役所に情報公開コーナーがあり、そこでいろいろな行政資料を見ることは可能であるが、映像については広報課でつくったタイムリーなものを流しているため、常に文化振興ビジョンに関わるものを流すコーナーではない。それぞれの事業を流すにしても、これは文化振興ビジョンに載っていますという形での上映はしてないため、文化振興ビジョンという観点からＰＲするのも必要だという気はする。

・川口委員

静岡市役所で、美術館の周期的に変わる展示情報や、音楽コンサートとかの事業について、紙媒体でなく映像を逐一変えていくなどしながら、柔軟な情報発信の仕方が何かあるといい。

・上利会長

いろいろな地域を訪れ市役所にもよく行くが、市役所には基本的にマップのようなものを求めて行き、細かい資料はそれぞれの課にもらいに行くのだが、旅行者のために、１階のホールなどに地域や市のいろいろな資料を置いてあるとものすごく便利だ。名古屋の場合はもっと進んでいて、新幹線を降りたらそこに観光案内があり、愛知、名古屋近辺の美術館を全部回ろうと思い資料をもらいに行ったところ、「はい、あります。」といってすぐにもらうことができた。それには番号が振られていて、どこに美術館、博物館があるのかが全部一覧になっていて、なんて優れた市だろうと思ったことがある。悪い例としては、受付でマップがあるか聞くと、観光課に行くように案内されたが、そこにマップがあるか聞いてもらうとないとの回答だった。ところが実はマップがあって、下に観光課と書いてありながら、それを担当課として知らなかったということがあった。ふらっと駅の観光案内所を訪ねたり、もっと詳しい資料を求めて市役所に行ったりもするが、今のように１階に紙媒体でもけっこう重要なものがいくつかある。それぞれの課で用意しているとのことだが、これをエレベーターで上がってまで取りにいこうという気力がある人はそれほど多くはないので、もちろん細かい資料が担当課にないといけないとは思うが、一般向けの資料をどこかわかりやすいところでふらっと手に取れるようにするというのは一つあるかもしれない。

・事務局（文化振興課長）

今は、本庁の１階や、区役所の地域総務課にある情報コーナーに、行政資料やパンフレットを置いてあるので、ある程度用が足りる人はいると思う。

・川口委員

そういうものを本当にやるとなると、そこに行けば割引券があるとか、ただ置いてあるだけでなくて、そこに行くと何かいいことがあるかもしれない、あるときがあるというインセンティブが必要だ。ただ、印刷してそこに置いてありますでは、まともな日本語だって見ない。一回入ったら継続的に行ってもらえないのではもったいない。こんなにやっているので、これを金額にして人件費を含めればすごいものだ。その割に印象としてどうなのか。

・事務局（酒井）

本当に１階の常備はいいことだと聞いていたが、広報課へ話しをして、もっと文化情報を発信したい。

・川口委員

そこに行けば美術館の割引券があるとか、おもしろそうなコンサートの情報が得られるとか、そういうものが必要なのではないか。関心が弱い人も、ちらっと寄ってみようということになり、そういうもので情報を得ながら、こんなこともやっていたのかということに気付くことができる。

・林委員

ＡＯＩに行くと、いつもたくさんのチラシをくれるのだが、行った人でないともらえない。きっとあちらこちらに置いてはあり、随分努力しているとは思うし、数としてはせそれなりに出してはいるが、どう届けるのかが大切になる。

・上利会長

今、割引というのも意外に面白いかもしれない。美術館にしても 100 円、200 円の割引がある、ならばチラシでも持ってみようか、持っているとチラッと見てみる、では行こうかという話になるのも面白いかもしれない。

・林委員

それは、清水エスパルスがやっている。100 円程度を出すと、サッカーのユニホームを同じ形のストラップみたいなものがもらえ、それを持ってお店をまわると割引になるというので、マリナートではかなり皆に撒いていた。

・上利会長

回遊性がちゃんとできているということか。

・林委員

行政がやる形ではないと思うが。

・事務局（文化振興課長）

財団でやっている部分だと、行政よりもやりやすいのかもしれない。例えば美術館なら美術館で、その中の事業で割引券がここについているというのはよくある。

・髙岡委員

市の美術館の関係でいうと、周辺のレストランとかが割引されたり、サービスが付くことがある。

・川口委員

商店街との連携はいいこと。

・上利会長

科学館とＡＯＩと美術館で、何かセットとかがあるのか。

・事務局（酒井）

「チケットでスマイル」というのがあり、協力していただいているお店に行くと、例えばビール一杯サービスなど、そのお店によってサービスの内容が違う。

・上利会長

お店ではなく館同士の割引のようなものはあるか。

・事務局（酒井）

館同士ではない。

・事務局（文化振興課長）

お互いにチラシを置くというような協力体制はある。

・上利会長

例えば、３館で何かといったようなものはあるか。

・事務局（酒井）

関連事業ということで言えば、例えば美術館で何々展覧会やっている同時期に、る・く・るや音楽館で展覧会のテーマに関連した事業を行うというようなことはあるが、チケットの割引等はない。同じ財団が指定管理しているということで、検討は出来るのだろうか。

・事務局（文化振興課長）

そういうものも、回遊性にもなるかと思うので検討させていただく。

・上利会長

情報収集に関してアンケートをとるという話があったが、文化振興課で、具体的に活動団体とか個人とかの話を聞くような機会というのは、何か設けているのか。

・事務局（酒井）

直接、団体から定期的に意見を聞くという機会は、今のところもっていない。例えば静岡市民文化会館とか、ＡＯＩ、美術館、る・く・る等、指定管理施設については年３回出向いて、モニタリングという形でヒアリングをしている。その中で、様々な市民の声を、間接的ではあるが聞いている。施設によっては母体の多い少ないはあるが、普通に投函するタイプの目安箱的なアンケートも施設に設置されているので、先ほどの事業に来た方のアンケートとは別に、それを集約したものにも目を通している。

・上利会長

実現するのは難しいと思うが、私は過去何年か、静岡や焼津、藤枝のほうにあるギャラリーなどを毎週必ず訪ねて、そこで活動している人達の声を聞くというのもずっとやっていた。私設の美術館もそうだし、音楽館もそうだが、直接聴くのとアンケートとして字でやるのとは質的な違いがあり、本当は音楽協会、文化協会と一年に一度でいいから、総会などで意見を聞かせてもらえればいいのだが、それを市役所の職員に要求するのは難しい。ただそれは実感として、そこを使って活動されている方にはこういう思いがあるのだということが

よくわかる。

・事務局（文化振興課長）

大切なことだと思うが、定期的というのはなかなか相手の数が多いこともあり難しい。その辺も含め、定期的は難しくても、何らかの形で少しずつでも声を聞いていくのが必要だ。

・上利会長

市の芸術文化協会みたいなものがあるか。

・事務局（文化振興課長）

文化協会がある。

・上利会長

音楽関係とか美術関係が出てきて総会とかはやらないのか。そういうところで、何か市への要望とか声を聞くこと、機会はあるのか。

・事務局（酒井）

直接、議題としてそういうものはないと思う。会った時に、こういうことがあったというような間接的なものはあるかもしれないが、総会は文化協会の内容になるので。

・上利会長

難しいとは思うが、どこかで皆さんの生の声が聞けるといい。

・林委員

それに関連して、例えば文化振興財団が生涯学習交流館等の管理をしているが、直接その主管課というか、事務局が事業の評価に行っているのか。出てきた数字だけを見ていると、数字だけで押さえてしまっているのではないかとその評価が気になる。実際に行くと、見ると聞くとでは大違いということがよく出てくる。ある程度実地の評価というのも、ペーパーではなくどこかで出てくるといい。

・髙岡委員

文化振興に関して、静岡市の市政モニターのような制度があってもおもしろいのではないか。市民が一年間ボランティアでモニターとしていろいろな文化事業に行き、こう思った、ああ思ったというようなことを取り入れていく。アンケートという話が先ほどあったが、それは興味がある人が行って書いているので。

・事務局（酒井）

それは、文化事業に特化したモニターのような感じなのか。

・髙岡委員

それがすべてではないのですけれど。

・上利会長

今までの意見の中で市民の声をもっと収集するというような話が上がっているので、我々もこれから、また今後気付いたことがあれば声を上げていきたい。今日の議題の評価書については、これで意見交換を終了とする。

こういうことを、今後、本当に活きた形でうまく引き継いでもらいたいという

思いを理解いただけるとありがたい。
議事を終了し、事務局にお返しする。

・事務局（三浦）

今回の懇話会で総合評価についてはほぼ審議を終了し、本日いただいた意見を評価書に盛り込みまとめさせていただく。最終年度である平成 26 年度の実績をなるべく盛り込んだ資料を添えて評価書を完成させたいため、年度末に進捗状況を調査し評価書としての形がまとまった段階で、もう一度お集まりいただき、最終確認をお願いしたい。

会議日程については、来年３月頃を予定するが、日時については、連絡を取りながら決定したい。

以上をもって、第３回静岡市文化振興ビジョン評価等懇話会を終了する。

本日の審議事項が、以上のとおり相違ないことを証明します。

平成　　年　　月　　日

静岡市文化振興ビジョン評価等懇話会会長

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

議事録署名人：懇話会委員

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿